

## 第 51 期日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修報告書

広島市立大学 国際学部 3 年 横山琉夏

2025 年 3 月

# México Mágico

4 月に入り、広島は桜が徐々に咲いていると友達から写真が届きました。メキシコはもうすでに夏に入ったのかと錯覚するような暑さです。

3 月 5 日から 7 日の 3 日間、グアナファト研修へ行きました。グアナファト州は、メキシコシティからバスで 5～6 時間ほどの距離にあり、日系企業が多く進出している地域です。また、広島県と友好提携を結んでおり、昨年 10 周年を迎えました。このようにさまざまな縁のあるグアナファトでの研修を通じて、多くの出会いや学びがあったので、報告していきたいと思います。

### 1 日目（グアナファト大学日本語学科生との交流）

メキシコシティから約 6 時間バスに揺られ、12 時半にグアナファトに到着しました。今回の研修では、現地コーディネーターの方が 3 日間同行して下さるということで、グアナファトのバスセンターまで迎えに来ていただきました。

グアナファト大学ではまず、日本語を学んでいる学生たちと、スペイン語や日本語を使って自己紹介をし、それぞれがなぜその言語を学んでいるのかについて交流しました。その後、日本語学科の学生の方々が「おすすめしたい旅行プラン」について、日本語でプレゼンを用意していただきました。費用の説明の際には、数字の桁が多くなると少し難しそうでしたが、皆さんとても上手な日本語を話されていて、聞いていて嬉しい気持ちになりました。



交流の後には自由な時間があったので、ピピラの丘へ行きました。夕暮れから完全に日が落ち、真っ暗になるまで滞在しましたが、時間とともに変化していく景色がとても美しく、感動しました。



ピピラの丘からの景色



## 2日目（マツダ・グアナファト州日本人学校見学）

2日目は、朝、グアナファト大学の学生6人と合流し、マツダメキシコの工場見学に行きました。まず、マツダメキシコ工場をグアナファトに設置した理由や現在の生産状況について説明していただきました。海外での需要増加に伴い、メキシコでの生産拡大をされており、2025年中に200万台目が生産されるそうです。現在は、約7割をメキシコ国外に輸出し、約3割はメキシコ国内で販売され、約3割という数字は他社より多いそうです。

その後カートに乗り、部品プレス・溶接、車体組み立ての現場を見学させていただきました。工場で働かされている134名の方が日本で研修を終えて、マツダメキシコ工場で働かされているそうです。工場で働かれている方のお話で特に印象に残っているのは、工場内で働く人たちが自身が「自分は貢献している」という実感を持てるような環境づくりがされているという点です。具体的には、工場内の改善点について現場の人たちが自ら考え、提案できるような仕組みが整えられているそうです。たとえば、生産ラインの一貫性を保つために、働いている方たちが自身が動線や在庫数の調整を行うなどの工夫をしているそうです。こうした取り組みによって、「会社の一員である」という意識が高まり、その意識の向上が品質の向上にもつながっているとされていました。

そして、最後に質疑応答をさせていただいたのですが、その際、学生から「メキシコ人と日本人の働き方の違いに対して教育する際、難しいことは何か」という質問がありました。それに対してマツダメキシコ工場のマネージャーの方が、「教育というよりも、自分たちは“会社を出させてもらっている”立場である。だからこそ、日本とメキシコの文化や考え方の違いをしっかりと理解したうえで、会社運営を行うことを大切にしている」と話されていました。将来、日本人とメキシコ人が関わることのできるコミュニティを作りたいと考えている私にとって、とても参考になる考え方でした。また、メキシコで生活し、メキシコ人の方と日常で関わる中でも非常に重要な視点だと感じました。



マツダメキシコ工場の見学を終え、グアナファト州の日本人学校に移動しました。私自身も小学5年生のころ別の州ですが、アグアスカリエンテス日本人学校に通っており、校舎の雰囲気似ていたため懐かしい気持ちになりました。まず、授業の様子を見学させていただいたのですが、教室では少人数の生徒たちが、楽しそうに授業を受けており、先生も生き生きと授業を行われていた様子がとても印象的でした。また、ちょうど小学生の卒業式が近い時期だったこともあり、下級生たちが卒業生のために一生懸命準備をしている様子も見ることができました。見学後、校長先生、教頭先生とお話させていただく時間があったのですが、そのなかで「治安を気にして、お子さんと奥さんを日本に残し単身赴任で来られる方が多い」と話されていたこと、そして「でも、ここでしか得られない経験や感じられないこともたくさんあると思う」とおっしゃられていたのがとても印象に残りました。私自身、小学5年生の1年間メキシコで過ごした経験が、今でも大きな財産になっていると感じています。あの1年間のおかげで、「学校に行けることは当たり前ではない」ということ、日本での生活がどれだけ恵まれていたかということ、そしてメキシコ人の温かさを実感することができました。だからこそ、今こうして再びメキシコに来ている自分がいると思っているので、あの時私をメキシコに連れてきてくれた両親には本当に感謝しています。そのため、もしお子さんのことを考えて、メキシコに来るかどうかを迷われている親御さんがいるのであれば、ぜひメキシコに来るという選択肢も前向きに考えてみてほしいと思いました。



久しぶりに日本のお弁当を食べました。  
グアナファト大学の学生たちも上手に使い、嬉しそうに食べていました。

そして、見学を終えた後はグアナファトに戻り、グアナファト大学の学生たちとはそこで解散となりました。移動中のバスで偶然隣の席になった学生の女の子と仲良くなり、そのまま一緒にグアナファトの街を散策したり、カフェに行っておしゃべりをしたりしました。そして、その子が「夜一緒にご飯を食べよう」と誘ってくれたので、ついて行くと、着いた先は彼女の友達の誕生日パーティーの会場でした。まさかのことにとても驚きましたが、誕生日の子もその場にいた友達も私たちを温かく歓迎してくれ、メキシコ人たちの優しさやフレンドリーさを感じました。最後には、また会おうと約束をしてお別れをし、素敵な出会いに恵まれた日となりました。

### 3日目（在レオン日本国総領事館）

3日目は、レオン市に移動し、在レオン日本国総領事館を訪問しました。青山総領事から、メキシコの歴史やグアナファト州と広島県の関係、今後行われるイベントなどについて説明していただきました。ほかの日墨生と会話をする中でも感じることはありましたが、今回総領事からのお話を聞き、両都市間の関係は、ほかの都市では見られないほどの強固なものであるということを改めて感じることができました。しかし、交流をさらに活発化していきたいということで、私たち大学生からの発信は大きな力になるというお話もいただきました。そのため、本報告書や SNS をしっかりと活用し、メキシコの魅力をより多くの人に伝えていきたいと思いました。また、日本に帰国した後も両都市間、両国間の交流の発展に少しでも貢献できるよう努力したいと感じました。



友好提携 10 周年記念のモニュメント

レオンにいる友達が働いているカフェに行き、ラテアートをしてもらいました!!



### おわりに

今回の研修を経て、メキシコと日本、特にグアナファト州と広島県の関係について、より深く知ることができました。また、研修でなければなかなか行くことができないような場所にたくさん訪れることができ、多くのことを学ぶ貴重な機会となりました。この学びをこれから先、日本とメキシコ、そして広島県とグアナファト州の繋がりに少しでも貢献できるよう活かしていきたいと思います。

今回の研修を企画してくださった広島県庁国際課の皆様、研修中お世話になったコーディネーターの土田様、グアナファト大学の学生の皆様、マツダメキシコ工場の関係者の皆様、在日本国総領事館の皆様、本当にありがとうございました。



#### 3月の México Mágico

メトロバスの長蛇の列

デモの影響で道路が一時的に封鎖され、メトロバスの駅が突然閉鎖されてしまいました。その影響でバスを途中で降ろされ、そこから歩いて帰ることになりました。